特許第 3283463 号

RW栽培トマト用省力育苗資材

楽苗®

取扱説明書

S&H 株式会社 誠和。

誠和の「楽苗」をご購入いただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みになり、各製品の特長を十分ご理解の上、適切な管理をしていただくようお願いいたします。
尚、この取扱説明書は常に目の届くところに保管し、十分活用して下さい。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、使用される方への危害や他の損害を未然に防止するための重要な内容を表示しています。各表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文を最後までお読みになり、正しくお使い下さい。

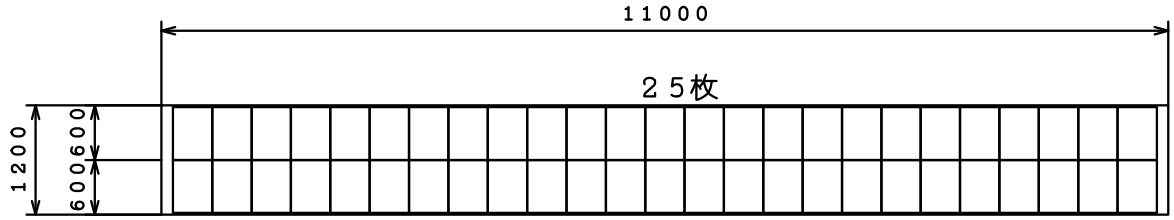
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示

	記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容が書かれています。
	記号は強制（必ず実行して欲しい）したり指示する内容があることを告げるものです。図の中や近くに具体的な指示内容が書かれています。

設置面積の目安

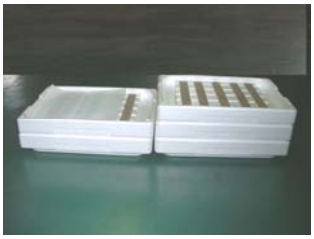
1.2m×11m（約 4 坪）で楽苗パレット　50 枚（1 本植えで 800 本、2 本植えで 1300 本）の場合。



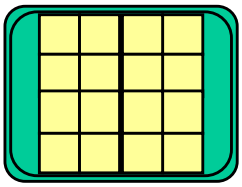
設置図例（通路の部分は除く）

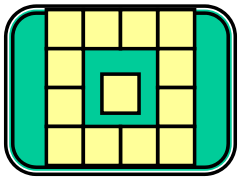
楽苗商品構成

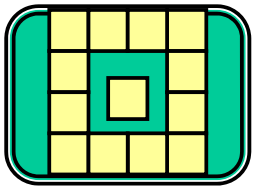
１．楽苗パレット（H100×W436×D584mm）
（1 袋 5 枚入り、防根シート 5 枚付）



楽苗パレット 1 枚で 1 本植えなら 16 本、
2 本植えなら 26 本、2 本仕立ても 26 本栽培できます。


1 本植え=16 本


2 本植え=13×2 本=26 本


2 本仕立=13×2 本=26 本

２．楽苗肥料セット（1 箱で楽苗パレット約 60 枚分です）
(1) 楽苗肥料 A　　860mﾘｯﾄﾙ（1kg）×3 本
(2) 楽苗肥料 B　　720mﾘｯﾄﾙ（1kg）×1 本

３．楽苗補給液（1 箱で楽苗パレット約 20 枚分です）
1 箱 16.8ﾘｯﾄﾙ(20kg)入り

４．**取扱説明書　（この説明書）**　　1 通

注）ロックウールポット（CV50×100×100mm）は別途ご用意ください。

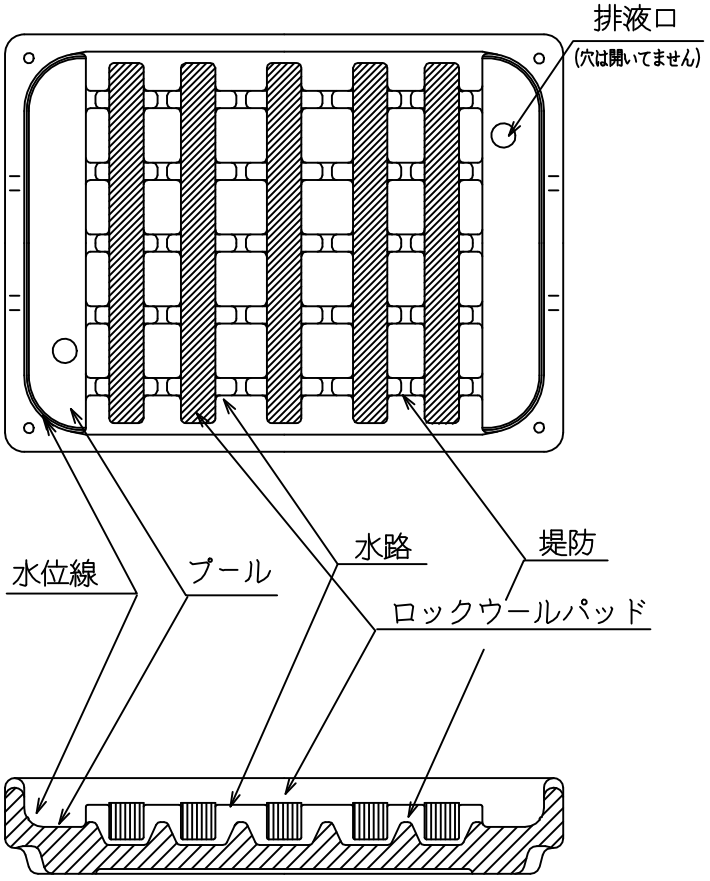
⚠注意

楽苗肥料 A･B および楽苗補給液の各液剤は、必ずラベルに記載された注意事項を守って使用して下さい。
誤った取り扱いをすると、人体に障害を負ったり、作物に損害が発生するおそれがあります。

あると便利なもの

1．タンク 2 個（1000 ﾘｯﾄﾙと 200 ﾘｯﾄﾙのもの各 1）
2．水中ポンプ（100V・50W 程度）
3．水道用ホース（50m）
4．秤（10kg のもの）
5．計量カップまたはメスシリンダー（2 ﾘｯﾄﾙの物）
6．栽培ベンチまたは角材

各部の名称



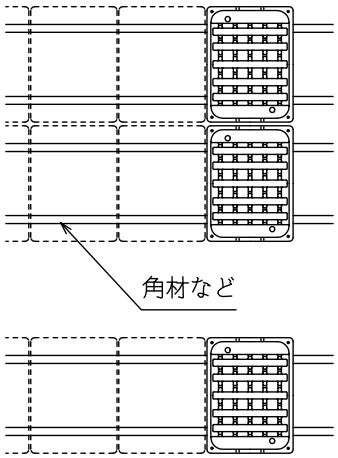
楽苗パレット S（断面図）

育苗スケジュールの例

作業	播種	ポット移植	補給 1 回目※2	補給 2 回目※2	補給 3回目※2	定植
播種苗（秋～冬～春）	-45 日	-33 日	-21 日	-14 日	-7 日	0 日
播種苗（夏）	-28 日	-18 日	-9 日	-4 日	―	0 日
購入苗※1（秋～冬～春）		-28 日	-21 日	-14 日	-7 日	0 日
購入苗※（夏）		-16 日	-10 日	-4 日	―	0 日
2 本仕立て（秋～冬～春）		-35 日	-21 日	-14 日	-7 日	0 日
2 本仕立て（夏）		-22 日	-10 日	-4 日	―	0 日

※1）購入苗は本葉 2 枚程度（播種後 3 週間）のものを想定しています。
※2）パレット重量が 6.8kg 以下（13 ポットでは 6.0kg 以下）になった場合は、この日数より早めに補給します。

１．育苗の準備



移植準備は移植前日までに行います。

①楽苗パレットの設置

・圃場に角材などを敷き楽苗パレット（以降パレット）をのせます。
・パレット全体に手が届くように通路をとって下さい。
・水準器などで水平を調べます。傾きがひどい場合は、板などを下にはさんで調節します。
・ロックウールパッドが浮き上がっている場合は、上から軽く押さえて直します。

ロックウールパッド（以降 パッド）は消耗品です。3 年（6 作）を目安に交換して下さい。また 3 年以内であっても、パッドがつぶれている場合には必ず交換してください。つぶれているパッドを使い続けると、パレットの水分がうまく吸い上げられず、生育不良がおきるおそれがあります。

⚠注意

・パッドに触れるときは必ずゴム手袋をして下さい。
・ロックウールの繊維で、手を傷つけるおそれがあります。
・パットから出る粉が皮膚につかないよう、また眼・鼻・口などに入らないように注意して下さい。かゆみ、発疹等が発生するおそれがあります。違和感を感じたら、こすらずに患部を水洗いした後、医師に相談して下さい。

・前作で使用したパレットは、洗浄した後よく乾かしてから使用して下さい。やむを得ず湿っているパレットを使用する場合は、ポットにかける液肥を多めに作製し、一度パレットに注入した後パレットを傾けて液を棄て、再度注入して下さい。

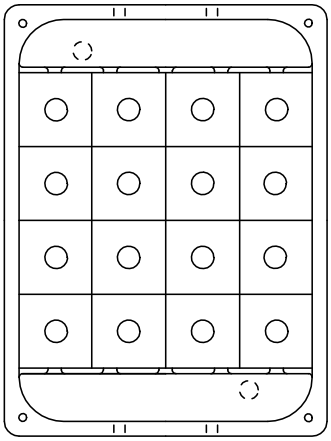
＜排液口の使い方＞

パレットには排液口がつけられていますが、出荷時の状態では穴がふさがれています。状況に応じて使い分けて下さい。

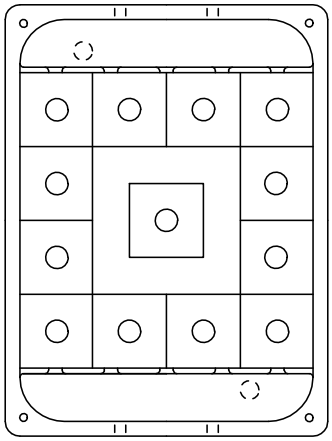
排液口を使う場合は、ドリルなどで直径 3mm 程度の穴をあけて下さい。余剰の液が排液口から出るので、水位調整が簡単になります。圃場に排液を流したくない場合は、穴をあけずそのまま使用して下さい。

②RWポット並べ

・各パレットに楽苗防根シートを敷きます。
・乾いたままのポットを用意し、芯を 1cm 程度抜き出します。
芯が乾燥するので 1cm 以上出さないで下さい。
・ポットをパレットに並べます。
　・1 本植えの場合は、縦横全て密着して 16 ポット並べて下さい。
　・2 本植えや、2 本仕立ての場合は、中央の 4 個のポットを抜いて 1 個にした状態、13 ポットにします。（次ページ図）



1本植え（16ポット）



2本植え、2本仕立て（13ポット）

⚠注意

・ポットに触れるときは必ずゴム手袋をして下さい。
・ロックウールの繊維で、手を傷つけるおそれがあります。

③楽苗液肥の作製

※パレット1枚につき11ﾘｯﾄﾙの水を使います。
※水1ﾘｯﾄﾙ当り、肥料A3.6ﾐﾘﾘｯﾄﾙを肥料B1.0ﾐﾘﾘｯﾄﾙ使います。

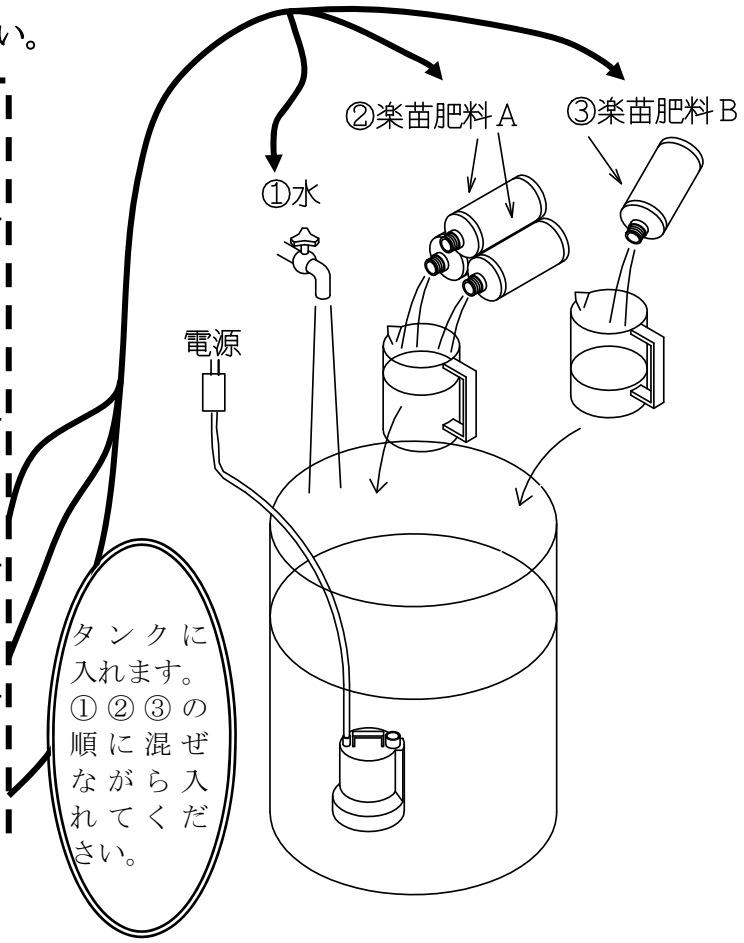
楽苗肥料使用量の目安

水量（ﾘｯﾄﾙ）	楽苗肥料A（ﾐﾘﾘｯﾄﾙ）	楽苗肥料B（ﾐﾘﾘｯﾄﾙ）
1	3.6	1.0

※下表にお客様に当てはまる数を計算して下さい。

ﾊﾟﾚｯﾄの数はいくつですか？	ﾊﾟﾚｯﾄ
育苗本数は何株ですか？ ﾊﾟﾚｯﾄ数×1ﾊﾟﾚｯﾄ育苗数	株
①必要水量は？ ﾊﾟﾚｯﾄ数×11ﾘｯﾄﾙ	ﾘｯﾄﾙ
②肥料Aの量は？ 必要水量①×3.6ﾐﾘﾘｯﾄﾙ	ﾐﾘﾘｯﾄﾙ
③肥料Bの量は？ 必要水量①×1.0ﾐﾘﾘｯﾄﾙ	ﾐﾘﾘｯﾄﾙ

※単位に気をつけて！



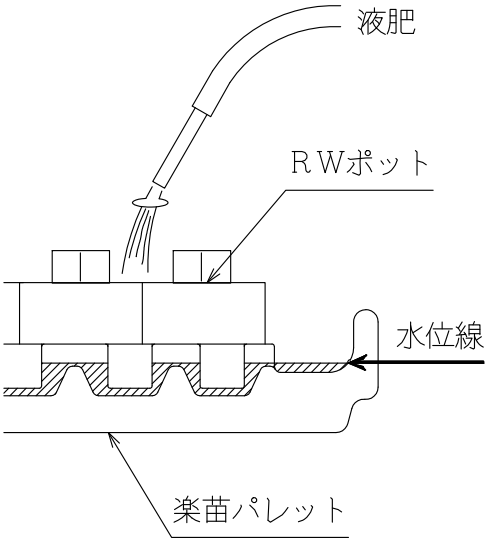
(1)タンクに水をためます。
(2)楽苗肥料Ａを計り入れます。
(3)楽苗肥料Ｂを計り入れます。
(4)水中ポンプ、風呂水かき棒などを使ってよくかき混ぜます。
・楽苗肥料には、一般的な水質で pH5～7 程度となるよう、あらかじめ酸が添加されています。pH 降下剤（さん太くん）を入れる必要はありません。
・楽苗液肥は、給液ユニットの希釈タンクで作製してもかまいません。
ただし、後述の補給の際に使う楽苗補給液は、絶対に希釈タンクに入れないで下さい。本圃での生育不良や給液ホースの目詰まりの原因になります。

⚠注意

・楽苗肥料ＡとＢを原液のまま混ぜないでください。沈殿が発生して水に溶けなくなります。
・原液を直接手で触らないようにして下さい。
かぶれなどの炎症を生じるおそれがあります。手についたときは、直ちに水で洗い流して下さい。

④ポット給液

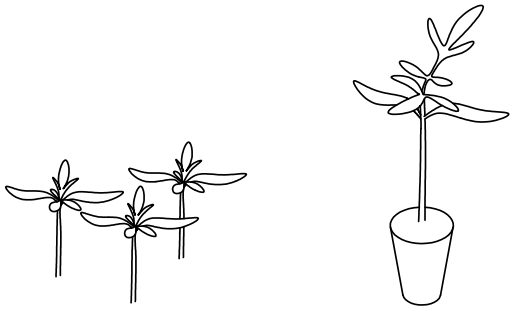
(1)水中ポンプとホース等を使って、楽苗液肥をパレット上の全てのポットが良く湿るようにまんべんなくかけます。
(2)楽苗パレットのプール部分に液肥が流れ出し、水位線の高さまで溜まったら給液を止めます。
(3)最後に、全てのパレットで水位線の高さまで均一に液が溜まっているか確認します。
少ない場合は液肥を継ぎ足して下さい。



２．移植

①移植する苗について

・移植する苗は、自分で播種した場合には、第一本葉が 3㎜～5㎜ になったもの（播種後約 10～14 日）を使います。
購入苗の場合は本葉 2 枚程度のものを使用して下さい。（自根なら播種後約 3 週間）
苗が若すぎると、活着が遅れる事があります。
自分で播種する場合は、根が絡まないよう粗く播いて下さい。（育苗箱 300×600㎜ を使用する場合約 200 粒/箱以下）


播種苗　　購入苗

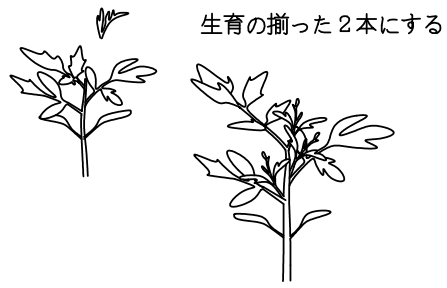
・接木苗の場合は、必ず癒合を確認してから移植して下さい。
・高温期（7 月～8 月）は、苗が大きいほど移植時のダメージを受けにくくなるので、移植のタイミングを遅らせて下さい（本葉が 5～10㎜）。このとき、根が絡まないようさらに粗く（120 粒/箱以下）播いて下さい。また、移植前には潅水を控えめにし、根を切らないように注意して下さい。

＜2 本仕立てにする場合＞

・2 本仕立ての場合、1 本仕立と比較して生育が遅れます。1 週間程度早く移植できるよう準備して下さい。

・ポット数は 1 パレットあたり 13 ケにして下さい。

・側枝の発生をそろえるため、1 回目の補給を遅らせ、12～14 日目に行って下さい。（パレット重量が 6.0kg 以下にならないよう注意します。）



2本仕立ての例

②苗の移植

(1)ポットの芯を抜き、中まで十分濡れているか確認します。乾いている場合はもう一度給液して下さい。

(2)苗を 1 本とり、ポットの芯を抜き、完全に 2 つに割って根をはさみます。2 本植えの場合は 2 本同時にはさみます。

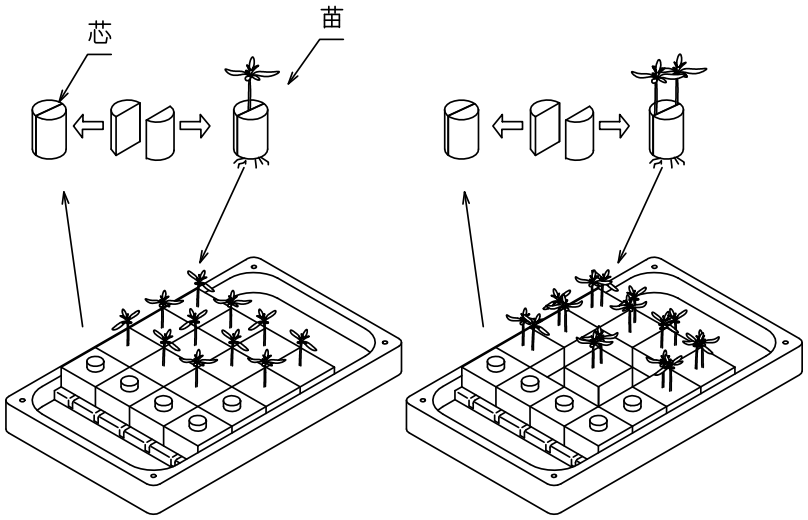
・植える深さは移植前の状態と同程度にし、深くならないように注意して下さい。深く植えると活着が悪くなるおそれがあります。

・根はまっすぐ伸ばして、芯にはさみます。

・根鉢ができている場合は、楽苗液肥で軽く根を洗ってからはさんで下さい。

(3)芯を元に戻し、しっかりと挿しこみます。

(4)ポットが浮き上がっている場合は、上から押さえて直します。



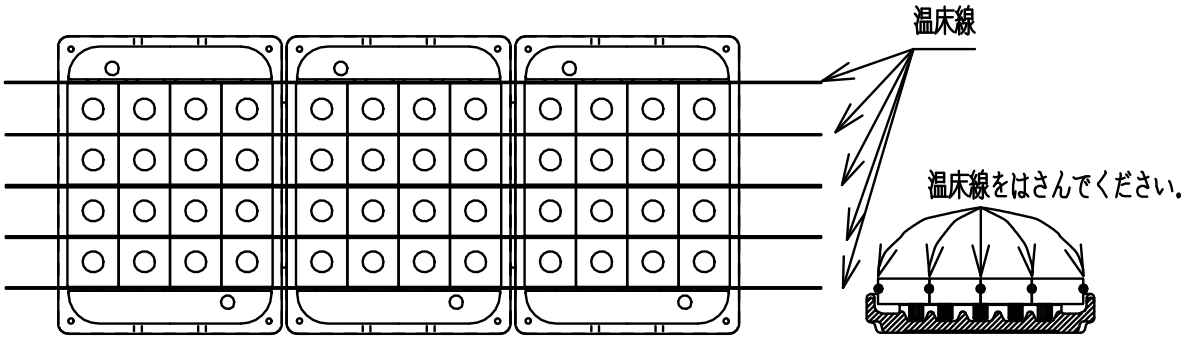
１本植え　　２本植えか２本仕立て

③移植後の管理について

・パレットの水路部分に溜まった液は通常 2～3 日でなくなりますが、パッド内にはまだ十分液が残っているので、次回の補給日まで液を足す必要はありません。

・冬季は、苗が十分活着するまで最低室温 15℃以上、ポット温度 16℃以上を確保して下さい。その後、気温は徐々に下げて下さい。日中は十分日光にあてるようにして下さい。ハウスの室度がとれない場合は、トンネル被覆して加温して下さい。

・ポット温度が取れない場合は、ポットに温床線をはさんで昇温して下さい。

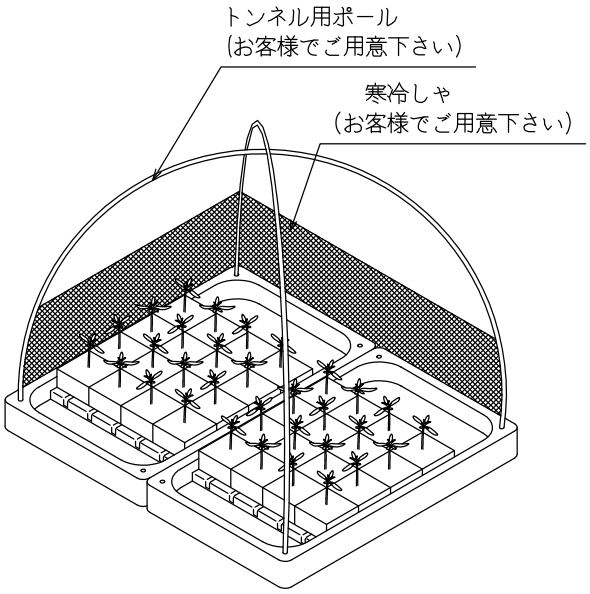


⚠注意

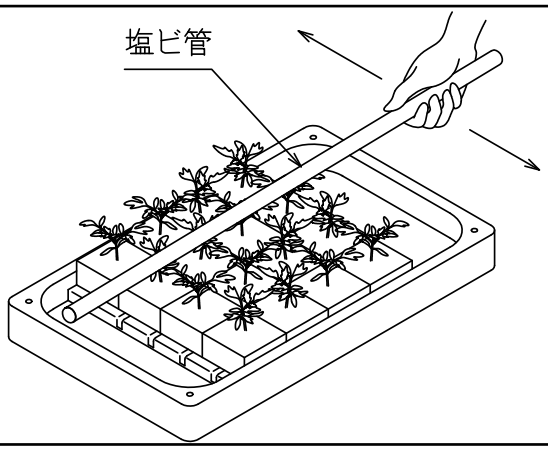
・温床線を使う場合は、パレットに線が直接触れないようにテープを貼るなどの対策をとって下さい。パレットが溶けたり、火災の原因になるおそれがあります。

・夏季は必要に応じて育苗ハウスの遮光を行い、室温 40℃以下、ポット温度 35℃以下になるよう管理して下さい。
特に 7 月上旬から 8 月下旬に移植を行う場合は、風通しのよいハウスを使用するなど、圃場の温度上昇に十分注意して下さい。
移植後 3 日間は特にダメージを受けやすいので、ミストなどの暑さ対策を十分行って下さい。

・側窓からの強い風が直接植物やポットにあたらないよう、風除けなどの対策を行って下さい。
・パレット周辺部の生育が悪い場合にも、風除けをつけると効果があります。
・薬剤を散布する場合は、活着後（移植 1 週間以降）に行って下さい。薬剤のポット潅注はできません。
粒剤は薬害の危険性が高いため、「楽苗」では使用しないで下さい。



＜よりコンパクトな苗にしたい場合＞
よりコンパクトで均一な苗を作りたい場合は、移植 1 週間後から 1 日に 1～2 回×週 5～7 日の頻度で、塩ビ管などで苗の表面を軽く触れる程度に 1 往復撫でて下さい。丈夫な苗を育てることができ、苗を傷める心配もほとんどありません。特に育苗期間を延長したい場合には非常に効果的です。



３．補給１回目

①補給の時期と目的

・補給の時期は季節や移植した苗によって変わります。
およそ次の目安に従って補給して下さい。ただし、パレットが 6.8kg 以下（13 ポットでは 6.0kg 以下）になった場合は、この日数より早めに補給します。

補給時期の目安（移植後の日数）

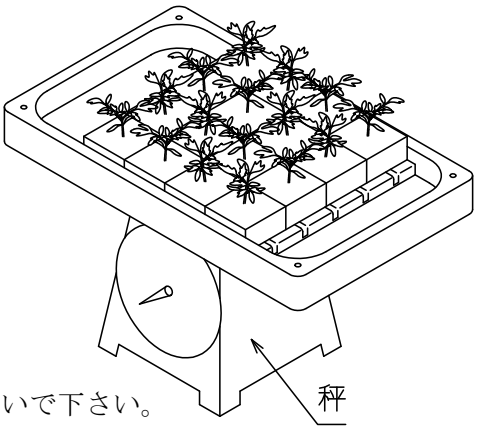
	播種苗	購入苗※1	2 本仕立て
秋～冬～春	12 日	7 日	14 日
夏	9 日	6 日	12 日

※1）購入苗は本葉 2 枚程度のものを想定しています。

・補給は、植物の吸収や蒸発によって失われた水分の補給と、塩類追加の目的で行います。
失われる水分の量は、圃場の環境や植物の状態によって変化します。
常に同じ品質の苗を作るためには､補給する液量にかかわらず一定量の塩類を追加する必要があります。まず、パレットの重量を測定し、作製する液量を決めます。

②パレット重量の測定

(1)育苗圃のいろいろな場所から 3 枚以上のパレットを選び、重量を測定します。
(2)パレット重量の平均を計算します。



・温床線などでパレットが動かせない場合には、ポットの重量を測定してください。なるべく別々のパレットから 10 個以上のポットを測定して下さい。このとき、四隅のポットは重量がばらつくので使わないで下さい。
重量を測定後、平均ポット重量を計算して下さい。

③水量の決定

(1)パレットの平均重量から、次ページの補給水量目安表を使って補給水量を調べます。補給水量にパレットの枚数を掛けたものが、タンクにためる水量になります。

・パレット重量の平均値が 9.6kg（13 ポットは 8.4kg）を超えているときは、ポット内にまだ十分な水分があります。この場合すぐに補給を行う必要はありません。9.6kg 以下(13 ポットは 8.4kg)になるまで待ってから補給して下さい。
・ポットの重量を使う場合は、補給水量目安表のポット重量の欄をみて、同様に補給水量を決めて下さい。

補給水量目安表

平均パレット重 kg		平均ポット重 g	パレット 1 枚の補給水量 ﾘｯﾄﾙ
16 ポット	13 ポット	50×100×100mm	
6.8	6.0	200	4.2
7.0	6.2	210	4.0
7.2	6.3	230	3.8
7.4	6.5	250	3.6
7.6	6.7	260	3.4
7.8	6.8	280	3.2
8.0	7.0	300	3.0
8.2	7.2	310	2.8
8.4	7.4	330	2.6
8.6	7.5	340	2.4
8.8	7.7	360	2.2
9.0	7.9	380	2.0
9.2	8.0	390	1.8
9.4	8.2	410	1.6
9.6	8.4	430	1.4

※上の数値の範囲より重い場合は、軽くなるまで待ってから補給して下さい。
※パレット重とポット重の両方を測定した場合、表の示す補給水量が異なることがありますが、その際はパレット重から調べた水量を採用して下さい。

＜水量決定の例＞

パレット重量 (1)8.1kg (2)7.4kg (3)8.4kg の場合

8.1＋7.4＋8.4＝23.9

23.9÷3＝7.9666…≒8.0　　平均:8.0kg

1パレットに16ポット並べている場合、パレット重量の平均が8.0kgならば、水量は3.0ﾘｯﾄﾙになります。

補給水量目安表

平均パレット重 kg		平均ポット重 g	パレット 1 枚の補給水量 ﾘｯﾄﾙ
16 ポット	13 ポット	50×100×100mm	
7.8	6.8	280	3.2
8.0kg			3.0ℓ
8.2	7.2	310	2.8

例)パレット100枚の場合

パレット 1 枚･3 ﾘｯﾄﾙ×100枚＝ 300ﾘｯﾄﾙの補給液(希釈液)を作って下さい。

④楽苗補給液（原液）量の決定

(1)補給に用いる補給液（原液）の量を次の表から決定します。これにパレットの枚数を掛けたものが、タンクへ入れる量になります。

補給１回目の原液量の目安（楽苗パレット１枚分）

	播種苗	購入苗
秋～冬～春	230～280 ミリリットル	280～330 ミリリットル
夏	200～230 ミリリットル	230～280 ミリリットル

※補給 1 回目と 2 回目は量が異なります。注意して下さい。

・補給液（原液）の量は、季節や移植時の苗齢によって異なります。
・夏季は暑さのストレスが生育を抑制するので、量を減らし生育を促します。
・購入苗など苗齢の進んだ苗を移植すると、徒長しやすくなります。この場合は補給液の量の多い方で生育を抑えます。

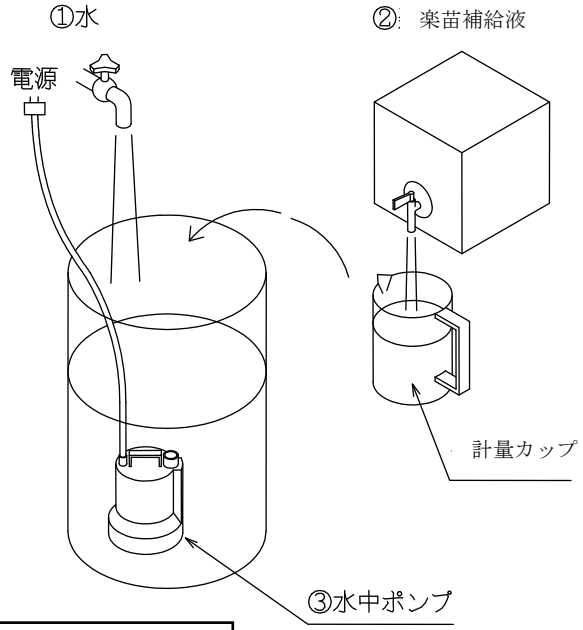
・冬季の育苗で、低めの温度で管理せざるを得ない場合（最低気温 14℃以下、ポット温度 15℃以下）では、生育が抑制されやすいため補給液（原液）の量を少なめにして下さい。

・補給液（原液）量は、環境や品種などによって最適値が変わる場合があります。状況に応じて加減して下さい。

⑤楽苗補給液希釈液の作製

(1)タンクに水をためます。
(2)楽苗補給液（原液）を計りいれます。
(3)水中ポンプなどを使ってよくかき混ぜます。

・補給液希釈液は非常に高濃度（EC20mS/cm 以上）なので、通常の EC メーターでは EC を測定できません。量を間違えないよう、十分注意して下さい。



⚠注意

・楽苗補給液は本圃の給液ユニットの希釈タンクを使わないで下さい。生育不良や給液ホースの目詰まりの原因になります。

⚠注意

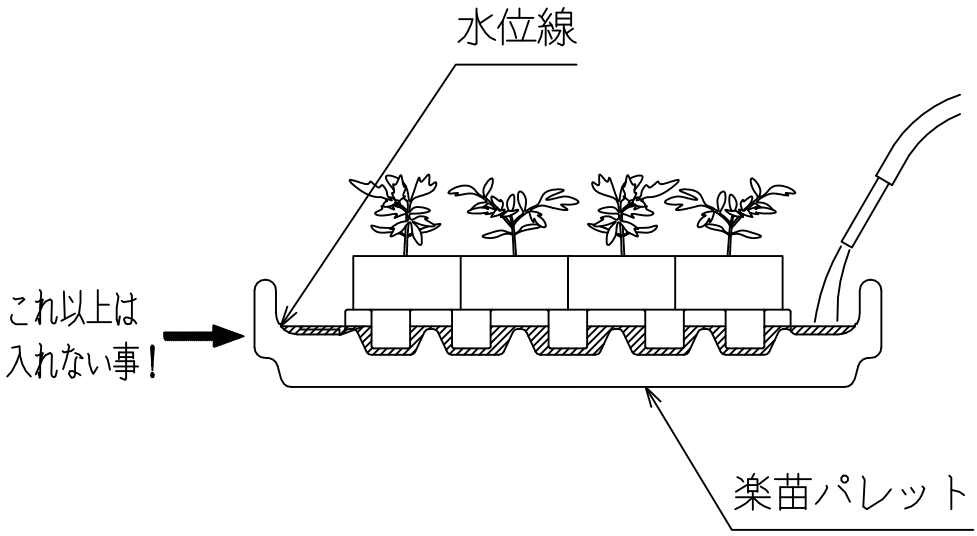
・原液を直接手で触らないようにしてください。かぶれ等を生じるおそれがあります。手についたときは、直ちに水で洗い流して下さい。

⑥楽苗補給液希釈液の施用

(1)補給液希釈液（以降 希釈液）を、パレットの一方のプール部分から、ゆっくり注入します。

(2)希釈液が反対側のプール部分に出てきて、水位線の高さまで溜まったら止めます。

・ 作製した液量には余裕があります。残った希釈液はパレットに入れず、廃棄して下さい。



⚠注意

・作物やポット上面に希釈液がかからないよう十分注意して下さい。液がかかった部分が黄化するおそれがあります。

・残った希釈液を廃棄する場合は、作物などにかからないよう注意して下さい。液に触れた部分が萎れたり、一次的に生育が悪化するおそれがあります。

4．補給 2 回目

①補給の時期

・1 回目の補給から 7 日後に行ってください。ただし夏場は水分が早く減るため 5～6 日後にして下さい。また冬場に温度が確保できず、生育が遅れている場合は 8～10 日後にして下さい。

※パレットが 6.8kg 以下（13 ポットでは 6.0kg 以下）になったら、水分が足りなくなる危険性があります。このような場合は、予定の日数に達していなくても直ちに補給を行って下さい。

・夏季の育苗などで早く定植したい場合、2 回目の補給を行わなくてもかまいません。

②パレット重量の測定

・補給 1 回目と同様に、パレットの重量を測定します。

③水量の決定

・補給 1 回目と同様に、補給水量目安表（P10）から補給に使う水の量を決定します。

④2 回目補給液(原液)量の決定

・補給に用いる補給液(原液)量を次の表から決定します。

補給 2 回目の原液量の目安（楽苗パレット 1 枚分）

	抑制しすぎの場合	基準値	徒長している場合
秋～冬～春	230～250 ミリリットル	280 ミリリットル	300～330 ミリリットル
夏	200～230 ミリリットル	250 ミリリットル	250～280 ミリリットル

・2 回目の補給に用いる楽苗補給液(原液)の量は、苗の生育をみて調節して下さい。
補給 1 回目と 2 回目は量が異なります。

⑤楽苗補給液希釈液の作製

・補給 1 回目と同様に、水と原液を混合します。

⑥楽苗補給液希釈液の補給

・補給 1 回目と同様に、希釈液をパレットに注入します。

・2 回目の補給を行った後、よく晴れた日中などに、水分が残っているにもかかわらず葉が萎れる場合があります。これは補給液による抑制が効いているときに、時々みられる現象です。気になる場合は一時的に遮光をして下さい。遮光しても萎れが回復しない場合は、3 回目の補給として水のみを補給して下さい。

５．補給 3 回目

①3 回目の補給を行う場合

・定植予定日までに水分が不足してしまう場合（パレットが 6.8kg 以下、13 ポットでは 6.0kg 以下になった場合）は、3 回目の補給を行って下さい。このとき、**苗が十分抑制されてコンパクトに仕上がっていれば、水のみを補給します。**

・苗が徒長している場合は3回目も1､2回目と同様に楽苗補給液を使用して下さい。補給液(原液)量は次の表を参考にして下さい。水の量は、補給 1～2 回目と同様に、パレット重量から補給水量目安表（P10）で調べて下さい。

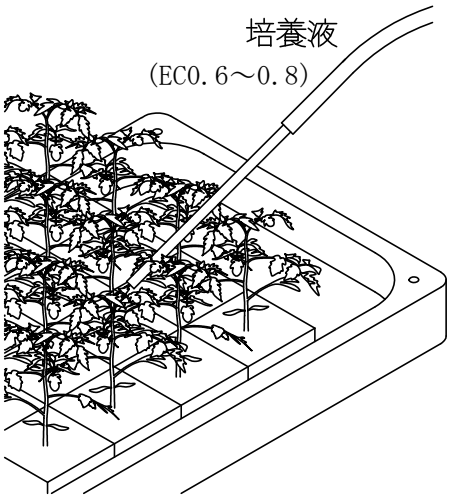
補給 3 回目の原液量の目安（楽苗パレット 1 枚分）

	基準値	徒長している場合
秋～冬～春	0	80～150 ミリリットル
夏	0	50～100 ミリリットル

６．定植

①定植の時期

・楽苗では定植後も 1～2 週間抑制の効果が残ります。
　このため従来より若苗で定植して下さい。
・第 1 花房が米粒大～ガク割れ直前の状態になったら定植します。
・7～8 月の高温期は、花房が見えないうちに定植します。
・定植前に水分を切らさないように注意して下さい。



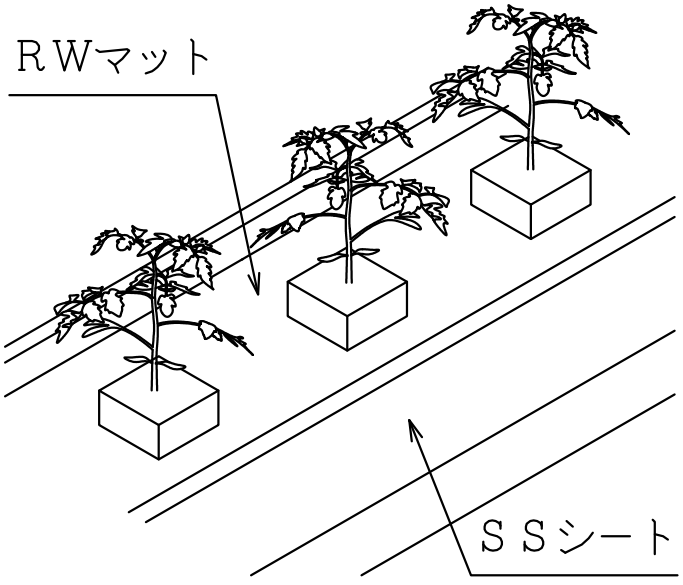
②ポットの洗い流し

・定植する前に、本圃で使う培養液（EC0.6～0.8）を使ってポット上から給液し、ポット内の補給液を洗い流します。

・1 ポットあたり 500 ﾐﾘﾘｯﾄﾙ程度給液して下さい。
・この作業は、定植前日に行ってもかまいません。
　特に夏場などで苗が小さいうちに定植する場合は
　定植 1～2 日前に行った方が、活着が早くなります。
・この作業を省略すると活着が遅れます。この場合は定植後すぐに十分ポット潅注を行い、
　ポット内とベッド内の補給液を十分洗い流して下さい。

③植えつけ

・SS シートを開きポットをロックウールマットの
　中央におきます。
・定植が済んだポットより、手給液（EC1.0）を十
　分行います。



7．定植後の管理について

・必ずご使用の本圃システムの説明書と併せてお読みください。

①ポット給液

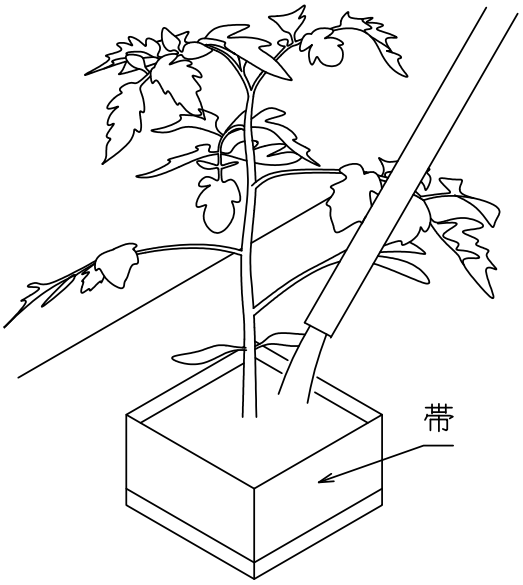
・定植後 10 日～2 週間の間は、1～2 日の間隔でポットの上から手掛けを行います。

・ポット給液は、培養液の供給の他に、ポットを重くしてマットと密着する目的があります。ドリップを使用する場合も、活着のために必ずポット給液を行って下さい。

・定植時にポットの帯を 1cm 程度上にずらしておくと、液がこぼれにくく効率的です。

・古くなったロックウールマットを使用していて過湿になりやすい状態のときは、定植後の給液を控えめにして下さい。

・活着を確認したら SS シートを閉じ、自動給液を開始します。



②秋～冬～春の育苗の注意点

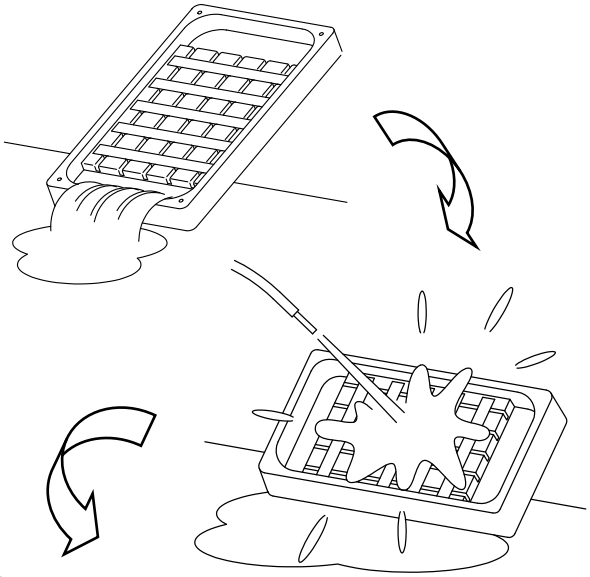
・「楽苗」を用いて育苗した場合、従来の方法より若い苗を定植することになります。このため、秋～冬～春にかけての育苗は、定植後の生育が旺盛になる場合がありますので、栽培管理には十分注意してください。
・果形の乱れにくい品種を選び、樹勢の特に強い品種は避けてください。
・着果負担がかかってくるまでは、肥料（EC）を低くめにしてください。
・高い培地温（20℃以上）と低い室温（10℃以下）が重なると過繁茂（樹ボケ）になりやすいので、絶対に避けてください。
・過繁茂になってしまった場合は、樹が落ち着くまでの間、夜温を高め（15℃程度）に、培地温を低め（17～18℃）に管理した方が、よい結果を得られる場合があります。

③夏の育苗の注意点

・「楽苗」では、補給液の効果で苗の徒長を抑制します。高温期には、補給液と高温の相乗効果で抑制が強く働く場合があります。定植時にはまだ根が少なく活着にやや時間がかかります。十分活着したのを確認するまでは、ポット給液を続けてください。
・定植後はポット給液をこまめに行うなど、ポットを乾燥させないよう注意してください。
・日中は遮光を行うなど、温度上昇に十分注意してください。
・活着を確認した後 SS シートを閉じる際は、必ず 7cm 程度の隙間をあけマットの熱を逃がすようにしてください。

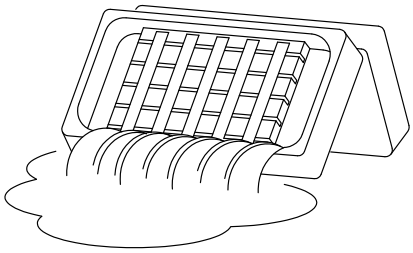
8．使用後のパレットの管理

①パレットに水を溜め、一晩おいてから流します。

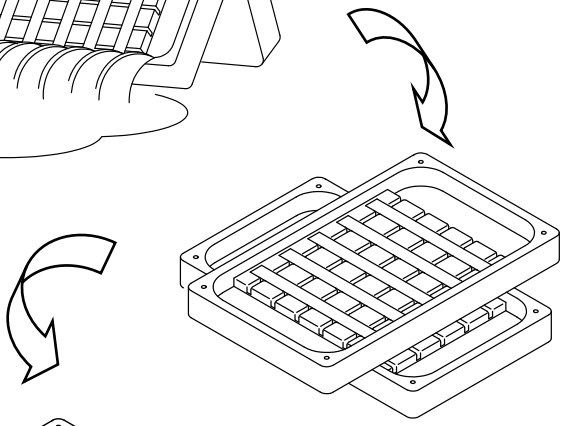


②清水で洗い流します。
（パッドに強い水流をあてないで下さい）

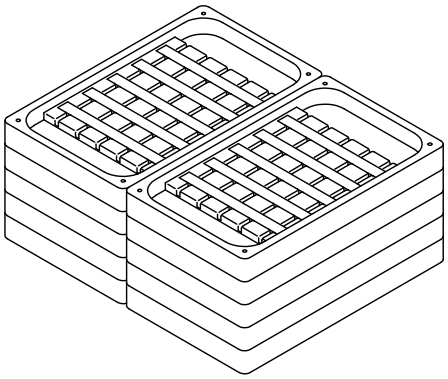
③横に傾けてパッドの水分を切ります。
（背中合わせにして立てるとよい）



④水平に広げて乾かします。
（縦横に積み重ねてもよい）



⑤乾いたら重ねて日のあたらない
ところに保管します。



・補給液は、非常に高濃度の塩類を含んでいるため、病原菌が殆ど繁殖しません。通常は殺菌剤を使用する必要はありません。殺菌剤を使用した場合は、水で十分洗い流してから使用して下さい。

⚠注意

・パレットを十分洗浄しないと塩類が残り、次作の生長が抑制される場合があります。

こんなときは…

症状	原因	対策
・徒長した ・倒伏した	・補給液(原液)量が少ない ・補給時期が遅い ・苗齢の進んだ苗を移植した ・日照不足、加温しすぎ	・補給液(原液)量を増やす ・補給時期を早める ・暖房の設定温度を下げる
・茎が細い ・葉色が黒い	・補給液(原液)量が多い ・補給時期が早い ・低温	・補給液(原液)量を減らす ・補給時期を遅らせる ・温度を確保する
・葉の一部が黄化した	・補給液が葉にかかった	・補給液を葉にかけないよう注意する
・下葉が黄化した	・肥料が切れてきた	・培養液をかける ・早めに定植する
・葉全体が黄化した ・葉が光沢を帯びている ・葉が巻く	・補給液がポットにかかった ・補給液(原液)量が多い ・低温による吸肥障害	・黄化した株だけ取り出し、薄い液肥で洗い流す ・補給液(原液)量を減らす ・温度を確保する
・水分があるのに萎れた	・急に晴れた ・徒長した苗に急に濃い補給液を与えた	・数日遮光する ・補給液(原液)量を減らす ・回復しない場合には水を補給する
・株もとが変色した ・株もとが傷んだ	・ポットが塩類集積している ・圃場が乾燥している ・暖房機の風があたっている	・ポットの洗い流しを早める ・早めに定植する ・病害予防として殺菌剤を散布する
・水が減らない	・液肥、補給液の入れすぎ ・圃場の湿度が高い	・液肥、補給液は正確に入れる ・排液口を使う ・できるだけ換気する
・ポットに白いものが浮き出た	・藻が塩類で枯れてカビが生えた	・無害なので何もしない
・補給液が多量に余った	・パレット重量の計り間違い ・パレット重量にばらつきがある	・余った液は処分する ・環境がばらついている場合は、管理を揃える

免責事項

弊社では、以下の各号に該当する責任は一切負うことができません。あらかじめご了承の上、取り扱いには十分ご注意下さい。

1. 使用上の注意が守られなかったことにより生じた損失。
2. 火災、風水害およびその他の天災により生じた損失。
3. 育苗中の作物の生育不良による苗の損失。
4. 上記、3に伴う作物の植替えによる収穫期間の減少による損失。
5. 育苗に起因する生育不良が原因して起こる、収量の減少による損失。

楽苗に関するお問い合わせは、
お買い求めの販売店か、弊社 営業所までご連絡ください。

≪販　売　店≫

S&H 株式会社 誠和。

ホームページ　http://www.seiwa-ltd.jp

本　　社　〒110－0005　東京都台東区上野 6-6-1 舶来堂ビル 6F　TEL.03-5817-2361　FAX.03-5817-2362
仙台営業所　〒981－3213　宮城県仙台市泉区南中山 1-27-274　ハピネス南中山 201 号室
TEL.022-739-7193　FAX.022-379-9123
小金井営業所　〒392－0412　栃木県下野市柴 262-10　TEL.0285-44-1020　FAX.0285-44-1014
豊橋営業所　〒440－0083　愛知県豊橋市下地町若宮 55-2　TEL.0532-55-3911　FAX.0532-53-7545
大阪営業所　〒562－0003　大阪府箕面市西小路 3-11-28　TEL.072-721-1821　FAX.072-721-1910
高知営業所　〒783－0062　高知県南国市久礼田青木 431-3　TEL.088-862-0311　FAX.088-862-0312
久留米営業所　〒834－0121　福岡県八女郡広川町大字広川 182-4　TEL.0943-32-5963　FAX.0943-32-5967
小金井事業所　〒329－0412　栃木県下野市柴 262-10　TEL.0285-44-1751　FAX.0285-40-8976

ここに掲載した製品の仕様及び外観は、性能向上のために予告なしに変更することがあります。

2013.10　第 4 版
210H00R